

平成 27 年度岩手県立大野高等学校振興支援金交付式挨拶

平成 27 年 7 月 24 日(金)

本日は、大野高校を守る会、会長坂久保満様、そして遠いところ遥々お越しいただきました大野高校を守る会東京支部の上森恵美子様、木村寛様、ご多用のところご出席いただきまして誠にありがとうございます。

さて、大野高校を守る会様のご厚意による大野高校振興支援金は、今年度で 3 年目を迎えます。昨年度も、進路実現、部活動、下宿生と遠距離通学生への支援に係る事業を立ち上げ、活用させていただいたところです。そして、今年度もここに「支援金交付式」を挙げていきますことに、重ねて感謝申し上げます。

さて、生徒の皆さん。私たちは、4 年前、東日本大震災津波を経験しました。皆さんの中には、あるいは先生方の中でも被災された人がいるかもしれません。

私たちは、震災によって、支援されること、また逆に支援することを経験し、その中で、かけがえのない「何か」を得ることができました。それは、感謝の心であり、また、地域や性別や年代を超えて互いの良さを認め合い、共に生きる価値ではないかと思えます。

今回、大野高校を守る会東京支部の方々が、遠くに住んでいらしても、故郷大野を思い、頑張る大野高校生を応援したいという強い気持ちが、多くの人を動かし、このような支援金という「形」として表していただいたものと思えます。

この後、生徒代表が交付を受け、感謝の言葉を述べることとなりますが、私たちが、守る会の皆様に感謝するとは、この場で感謝の言葉を述べることはもちろんですが、もう一つは、支援していただいた皆様に、大野高校の生徒が元気で逞しく活躍している姿を見せていくこと、それを約束することではないかと思えます。

私は、以前皆さんに、「ペイフォワード」という話をしたことがあります。人から受けた厚意をその相手に恩返し(ペイバック)するのではなく、他の誰かに違う形で先送りして善意を広げていくという、11 歳の少年が考案した奇想天外なアイデアです。

ですから、皆さんが、これから勉強に部活動に頑張る姿を見せ続けること、すくすくと素直に成長する姿を見せることが、ご支援いただいた大野高校を守る会の皆様にも、きっと巡り巡って、大きな喜びを与えることだと思うし、感謝の輪はもっと大きくなっていくことと思えます。

それでは、大野高校を守る会の皆様への感謝と、大野高校生諸君への期待を込め、私の挨拶とします。

大野高校を守る会の皆様、東京支部の皆様、本日は本当にありがとうございました。

校長 下町 壽男